

犬鳴山鳥獸保護区

鳥獸保護区更新調査業務
報告書

令和2年度

大阪府環境農林水産部動物愛護畜産課

目次

1. 調査の目的	1
2. 調査区域及び調査対象	1
3. 調査内容	2
4. 調査地の概要及び環境	2
5. 調査方法	3
6. 調査地区位置図	4
7. 調査結果	5
7-1 現地調査結果	5
7-2 文献調査結果	13
7-3 哺乳類調査結果	13
7-4 哺乳類文献調査結果	18
8. まとめ	19
9. 参考文献	23

1. 調査の目的

この調査は、大阪府が指定した既存鳥獣保護区のうち、犬鳴山鳥獣保護区の存続期間の更新についての検討資料とするため、その地域における野生鳥獣の生息状況など地域の自然環境に関する基礎資料を得ることを目的とする。

2. 調査区域及び調査対象

犬鳴山鳥獣保護区に生息する野生鳥獣等を調査対象とする。犬鳴山鳥獣保護区の範囲を図 2-1 に示す。

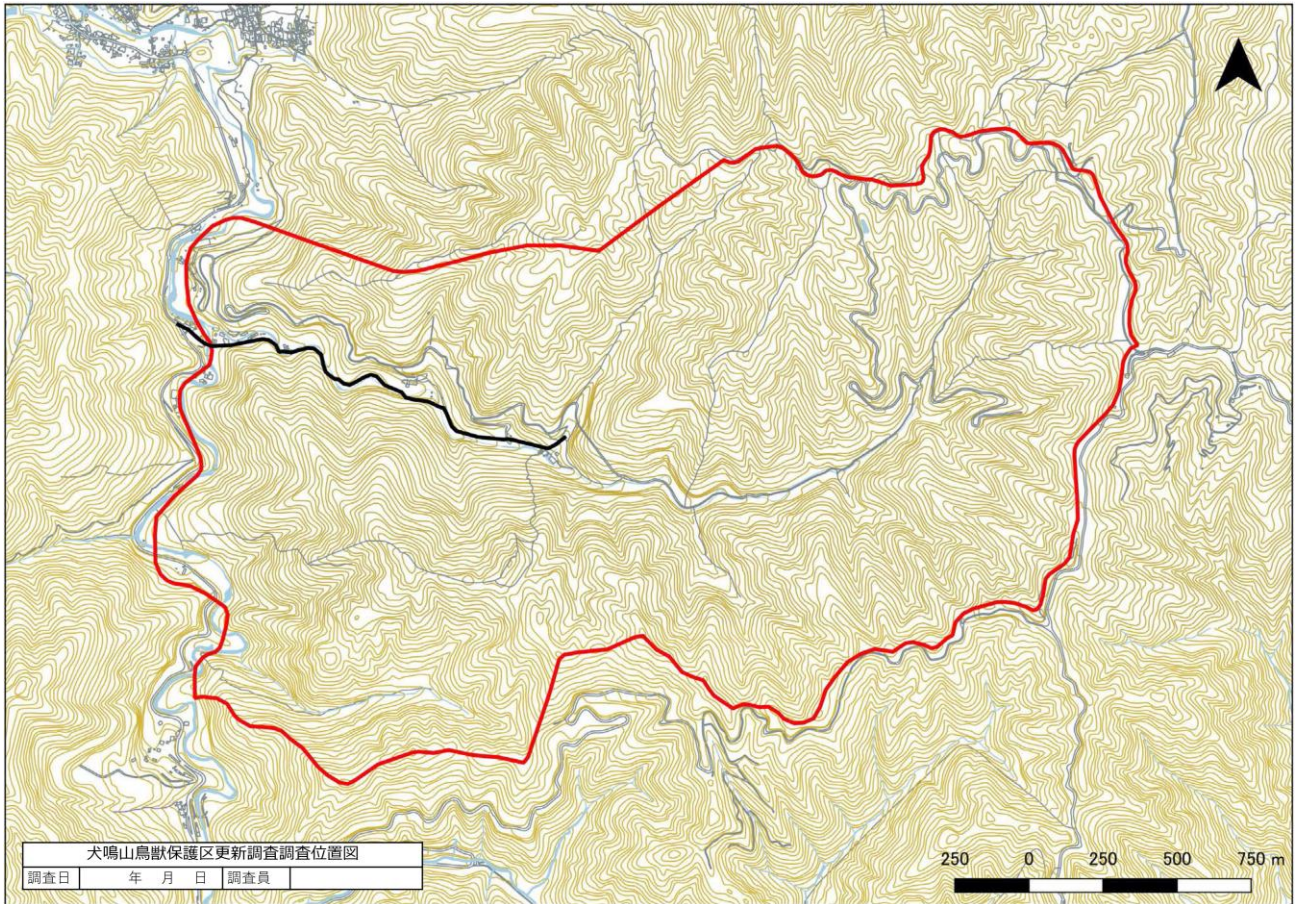


図 2-1 犬鳴山鳥獣保護区の範囲

3. 調査内容

現地調査及び既存データの整理により、下記の事項を把握する。

- ・ 鳥獣生息状況（リスト作成）、生息密度、特色
- ・ 利用状況（野鳥観察者数など）

4. 調査地の概要及び環境

犬鳴山鳥獣保護区は、和歌山県と境を接する大阪府の南部、泉佐野市の最南端に位置し、南側は和歌山県に接している。1989年に大阪府が選定している大阪府内の自然名所100カ所「大阪みどりの百選」に選定されている。府道粉河線のうち泉佐野市と和歌山県との境界線を起点とし、府道を北進、泉佐野市大木字トンゴに至り、同点を峰づたいに東進し、泉佐野市と岸和田市の境界の尾根まで進み、この境界線をつたって、標高569mの高城山を越えて和歌山県境に至り、県境をつたって起点に至る線で囲まれた範囲で約488haである。範囲内には大鳴溪谷に七宝滝寺がある他、犬鳴温泉や療養施設の建物が少数ある。そのほかは山地地形である。保護区内の水域としては樫井川上流の二瀬川へと流れる犬鳴川と、犬鳴東手川林道途中に高城池があり、特に高城池は希少種の水草の生息地として重要である。

鳥獣保護区内の植生はモチツツジ・アカマツ群集とスギ・ヒノキ植林が多くを占めるが、七宝滝寺を中心とする不動谷に沿って、アラカシやシラカシ、ウバメガシ、ツクバネガシ、ツブラジイなどのシイ・カシ群落が見られ、タイミンタチバナやミミズバイ、カギカズラなどの暖地性の樹種が混ざる。樹相を見ると、高木層から亜高木層では前述のシイ・カシ類の他、タラヨウ、カゴノキ、ウワミズザクラ、イロハモミジ等が見られる。低木層ではアオキ、シロダモ、シラキ、マルバウツギ、キハギ等が見られ、草本層では、イズセンリョウ、フユイチゴ、ヤマアイ、ヤブラン、シャガ等が見られる。

鳥獣保護区内の大鳴川から行者の滝、さらに不動谷から五本松、粉河ハイランドパークを抜け和泉葛城山に向かうルートは近畿自然歩道の一部であり、春から秋にかけてハイキングに訪れる人々が多い。

参考：「大阪の山ふれあいガイド」（大阪府農林水産部緑の環境整備室，1995年10月）

参考：「和泉山脈の自然」（大阪市立自然史博物館，1977年10月）

参考：「大阪の自然」（大阪自然科学研究会編，六月社，1966年3月）

5. 調査方法

調査は、現地調査及び表 5-1 に示す文献による文献調査により実施した。

現地調査は、ラインセンサス法と任意観察を実施した。ラインセンサス法では、調査ルートを約 2km/h の速度で歩き、片側 25m 両側合わせて 50m の範囲の鳥獣を記録した。調査ルートは、犬鳴山バス停付近の駐車場から犬鳴川沿いの山道を歩き、最奥部の行者の滝までの約 2 kmを設定した。ルートの位置は図 6-1 に示すとおりである。任意観察では、保護区内の高城池、五本松での定点観察などを中心に、ラインセンサスのコースにはない環境での生息種が把握できることを意識し、調査を実施した。調査時期は、繁殖期及び越冬期とした。

また、調査毎に重要種を選出した。重要種の選定基準は表 5-2 による。

表 5-1 参考文献

文献 No.	文献名	発行年・発行者
文献 1	大阪府鳥類目録 2016 地域別鳥類リスト	2017 年・日本野鳥の会大阪支部
文献 2	大阪の山ふれあいガイド	1995 年・大阪府農林水産部緑の環境整備室
文献 3	金剛・生駒山地及和泉山脈の環境保全調査	1977 年・大阪府農林部自然保護課
文献 4	和泉山脈の自然	1977 年・大阪市立自然史博物館
文献 5	牛滝・葛城・犬鳴の自然と人文	1968 年・芝本 貞太郎
文献 6	大阪の自然 大阪自然科学研究会編	1966 年・株式会社六月社

表 5-2 選定基準

選定基準
絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律（種の保存法）
環境省レッドリスト 2019（環境省 R L）
大阪府レッドリスト 2014（大阪府 R L）

6. 調査地区位置図

調査範囲は金剛山麓鳥獣保護区全域とした。ラインセンサスに用いたルートは図 6-1 に示すとおりである。

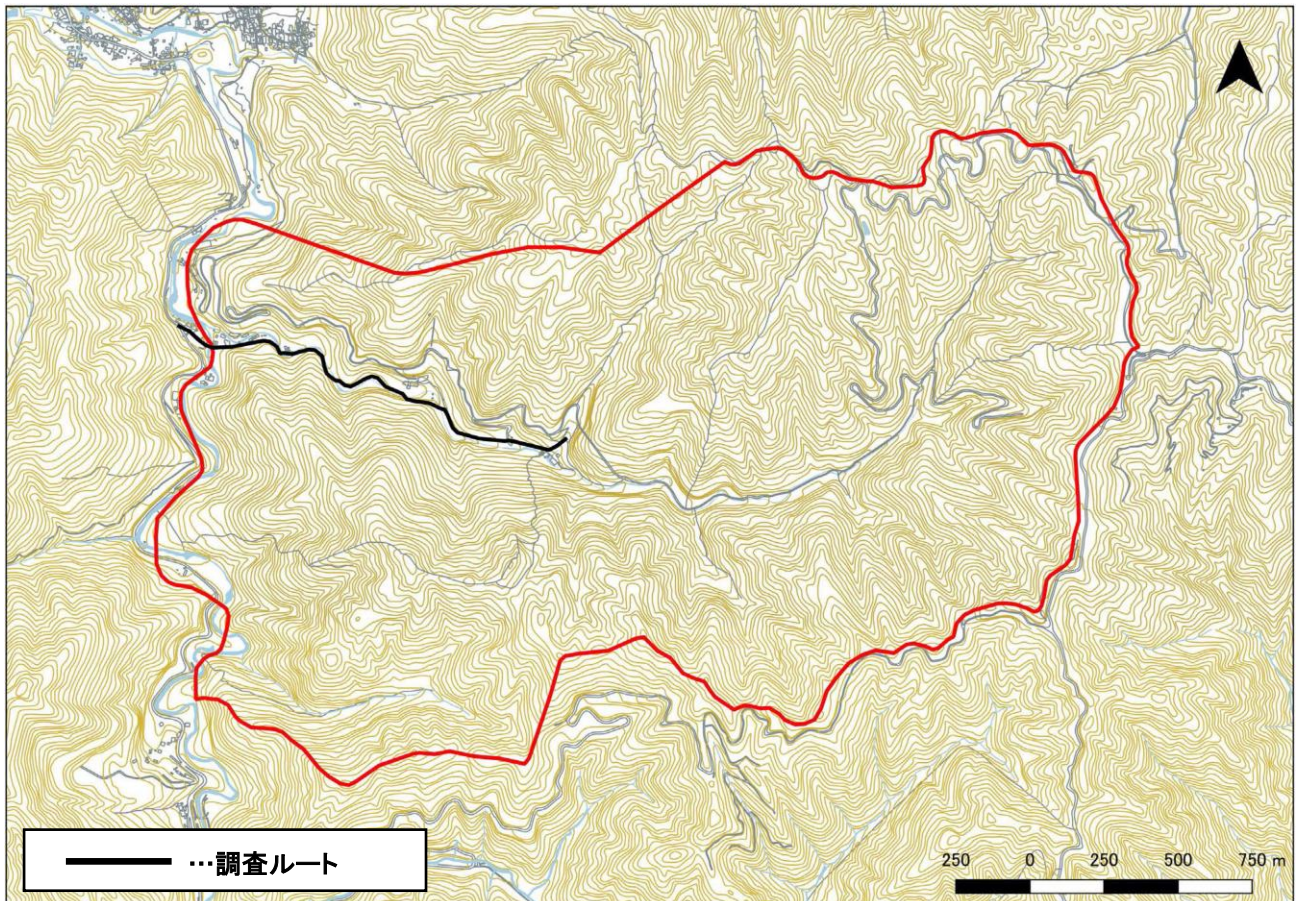


図 6-1 調査地点位置図

7. 調査結果

7-1 現地調査結果

① 調査時期・天候・時間

現地調査時期、天候、調査時間を表 7-1 に示す。

表 7-1 調査時期・天候・調査時間

調査時期	調査日時	天候	調査時間	
繁殖期	令和 2 年 6 月 22 日	曇	ルート	9:00～11:30
			任意	11:40～12:40
越冬期	令和 2 年 12 月 23 日	晴	ルート	7:40～10:00
			任意	10:20～11:00

② 鳥類確認種

現地調査の結果、繁殖期に 5 目 19 科 29 種、越冬期に 2 目 15 科 23 種、合わせて 5 目 22 科 40 種の鳥類を確認した。確認種を表 7-2、調査回・ルート毎の個体数を表 7-4 に示す。

渡り区分の内訳は、留鳥 21 種、夏鳥 11 種、冬鳥 8 種であり、留鳥 52.5%、夏鳥 27.5%、冬鳥 20.0%と、一年を通して見られる留鳥が半数以上を占めた（表 7-2、図 7-1）。渡り区分の分類は、「大阪府鳥類目録 2016」（2017 年 3 月 31 日、日本野鳥の会大阪支部）に従った。なお、トラツグミについては冬鳥（一部留鳥）と記載されているが、2016 年 6 月 10 日に実施された全国鳥類繁殖分布調査で保護区内での轉りが確認されており、繁殖していると考えられるため、留鳥として分類した。

渡り区分	確認種数	割合
留鳥	21 種	52.5%
夏鳥	11 種	27.5%
冬鳥	8 種	20.0%

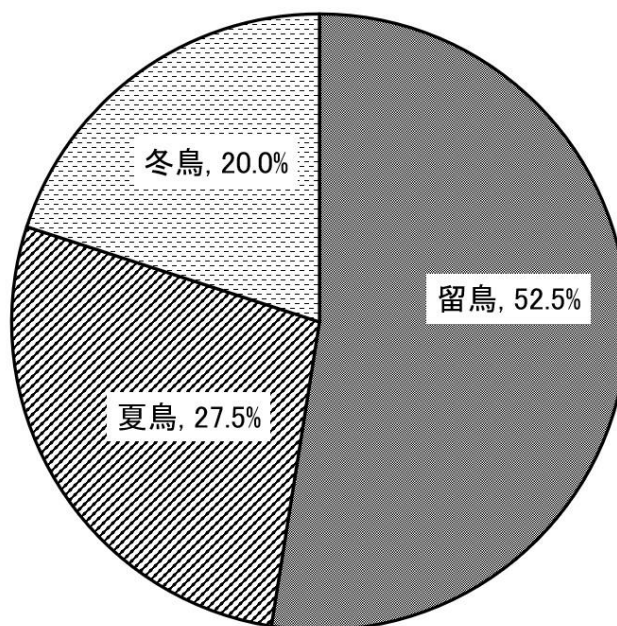


図 7-1 現地調査 渡り区分の内訳

表 7-2 現地調査 鳥類確認種

No.	目名	科名	学名	種名	繁殖期	越冬期	渡り区分	
1	ハト	ハト	<i>Treron sieboldii</i>	アオバト	○		留鳥	
2	カッコウ	カッコウ	<i>Cuculus poliocephalus</i>	ホトトギス	○		夏鳥	
3			<i>Cuculus canorus</i>	カッコウ	○		夏鳥	
4	タカ	タカ	<i>Pernis ptilorhynchus</i>	ハチクマ	○		夏鳥	
5	キツツキ	キツツキ	<i>Dendrocopos kizuki</i>	コゲラ	○	○	留鳥	
6			<i>Dendrocopos major</i>	アカゲラ		○	冬鳥	
7			<i>Picus awokera</i>	アオゲラ	○		留鳥	
8	スズメ	カササギヒタキ	<i>Terpsiphone atrocaudata</i>	サンコウチョウ	○		夏鳥	
9		モズ	<i>Lanius bucephalus</i>	モズ		○	留鳥	
10		カラス		<i>Garrulus glandarius</i>	カケス	○	○	留鳥
11				<i>Corvus macrorhynchos</i>	ハシブトガラス	○	○	留鳥
12		クイタダキ		<i>Regulus regulus</i>	クイタダキ		○	冬鳥
13		シジュウカラ		<i>Poecile varius</i>	ヤマガラ	○	○	留鳥
14				<i>Periparus ater</i>	ヒガラ	○	○	留鳥
15				<i>Parus minor</i>	シジュウカラ	○	○	留鳥
16		ツバメ		<i>Hirundo rustica</i>	ツバメ	○		夏鳥
17				<i>Hirundo daurica</i>	コシアカツバメ	○		夏鳥
18				<i>Delichon dasypus</i>	イワツバメ	○		夏鳥
19		ヒヨドリ		<i>Hypsipetes amaurotis</i>	ヒヨドリ	○	○	留鳥
20		ウグイス		<i>Cettia diphone</i>	ウグイス	○	○	留鳥
21				<i>Urosphena squameiceps</i>	ヤブサメ	○		夏鳥
22		エナガ		<i>Aegithalos caudatus</i>	エナガ	○	○	留鳥
23		ムシクイ		<i>Phylloscopus coronatus</i>	センダイムシクイ	○		夏鳥
24		メジロ		<i>Zosterops japonicus</i>	メジロ	○	○	留鳥
25		ミソサザイ		<i>Troglodytes troglodytes</i>	ミソサザイ	○	○	留鳥
26		カワガラス		<i>Cinclus pallasii</i>	カワガラス		○	留鳥
27		ヒタキ		<i>Zoothera dauma</i>	トラツグミ		○	留鳥
28	<i>Turdus pallidus</i>			シロハラ		○	冬鳥	
29	<i>Tarsiger cyanurus</i>			ルリビタキ		○	冬鳥	
30	<i>Monticola solitarius</i>			イソヒヨドリ	○		留鳥	
31	<i>Ficedula narcissina</i>			キビタキ	○		夏鳥	
32	<i>Cyanoptila cyanomelana</i>			オオルリ	○		夏鳥	
33	スズメ		<i>Passer montanus</i>	スズメ	○		留鳥	
34	セキレイ		<i>Motacilla cinerea</i>	キセキレイ	○	○	留鳥	
35	アトリ		<i>Pyrrhula pyrrhula</i>	ウソ		○	冬鳥	
36			<i>Eophona personata</i>	イカル	○		留鳥	
37	ホオジロ		<i>Emberiza cioides</i>	ホオジロ	○		留鳥	
38			<i>Emberiza rustica</i>	カシラダカ		○	冬鳥	
39			<i>Emberiza spodocephala</i>	アオジ		○	冬鳥	
40			<i>Emberiza variabilis</i>	クロジ		○	冬鳥	
合計	5 目	22 科	40 種		29 種	23 種	—	

分類及び配列は「日本鳥類目録 改訂第7版」(2012年, 日本鳥学会)に従った。

③ 鳥類の繁殖状況

繁殖期調査において確認した 29 種は、いずれも保護区周辺で繁殖している可能性がある（繁殖ランク C に該当）。このうち 20 種は現地調査において餌運びや囀り、家族群などの繁殖を示唆する行動が確認され、保護区内で繁殖している可能性が高い。その内訳は表 7-3 に示すとおりである。繁殖行動の判定基準は、全国鳥類繁殖分布調査における繁殖ランク（NPO 法人バードリサーチ、<https://bird-atlas.jp/map.html#yoshi>）に準じた。

表 7-3 鳥類の繁殖状況

ランク	観察コード	観察事項	該当種
A (繁殖を確認) 3 種	14	成鳥が巣のヒナに餌を運搬している（餌をくわえたまま観察者を警戒し移動する気配のない場合を含む）	イソヒヨドリ、キセキレイ
	20	ヒナの声をきいた	アオゲラ
B (繁殖の可能性が高い) 17 種	30	その種が営巣し得る環境で繁殖期に、その種のさえずり（キツツキ類のドラミングを含める）を聞いた。ただし、その鳥が冬鳥、旅鳥かもしれない時は除く	アオバト、ホトトギス、カッコウ、コゲラ、サンコウチョウ、ヒガラ、シジュウカラ、ウグイス、ヤブサメ、センダイムシクイ、オオルリ、イカル、ホオジロ
	39	かなり移動可能と思われる巣立ちヒナを見た	ハシブトガラス、ウグイス
	40	家族群を見た	ツバメ、コシアカツバメ、メジロ
C (繁殖の可能性あり) 9 種	50	その種が営巣し得る環境で繁殖期にその種を確認したが、他には繁殖の兆候が認められない。ただし冬鳥または旅鳥は過去にその地方で繁殖の記録があるもの	ハチクマ、カケス、ヤマガラ、イワツバメ、ヒヨドリ、エナガ、ミソサザイ、キビタキ、スズメ

※全国鳥類繁殖分布調査における繁殖ランク（2014, NPO 法人バードリサーチ <https://bird-atlas.jp/map.html#yoshi>）を参照し、該当箇所を抜粋して作成した。

④ 鳥類の生息個体数

ラインセンサス法による調査の結果、繁殖期に 17 種 52 羽、越冬期に 16 種 54 羽、合わせて 3 目 18 科 27 種 106 羽の鳥類を確認した。調査ルートにおける調査回毎の個体数を表 7-4 に示す。

繁殖期には夏鳥のハチクマやサンコウチョウ、オオルリ、キビタキ、ヤブサメなどのほか、留鳥のメジロやヒヨドリ、キセキレイなどが見られたが、個体数は少なめであった。また、越冬期には冬鳥のルリビタキやアオジ、クロジなどのほか、留鳥のカケスやヒヨドリ、エナガなども見られたが、繁殖期同様個体数は少なかった。

表 7-4 調査回毎の確認個体数

No.	目名	科名	種名	繁殖期	越冬期	計	
1	タカ	タカ	ハチクマ	1		1	
2	キツツキ	キツツキ	コゲラ		1	1	
3			アオゲラ	2		2	
4	スズメ	カササギヒタキ	サンコウチョウ	2		2	
5		カラス	カケス	1	2	3	
6			ハシブトガラス	4	2	6	
7		シジュウカラ	ヤマガラ		1	1	
8			シジュウカラ		1	1	
9		ツバメ	ツバメ	1		1	
10			コシアカツバメ	3		3	
11		ヒヨドリ	ヒヨドリ	7	6	13	
12		ウグイス	ウグイス		5	5	
13			ヤブサメ	2		2	
14		エナガ	エナガ	2	7	9	
15		ムシクイ	センダイムシクイ	1		1	
16		メジロ	メジロ	11	17	28	
17		ミソサザイ	ミソサザイ		2	2	
18		カワガラス	カワガラス		1	1	
19		ヒタキ	トラツグミ		1	1	
20			ルリビタキ		3	3	
21			キビタキ	2		2	
22			オオルリ	6		6	
23		スズメ	スズメ	1		1	
24	セキレイ	キセキレイ	5	2	7		
25	アトリ	イカル	1		1		
26	ホオジロ	アオジ		2	2		
27		クロジ		1	1		
	3 目	18 科	27 種	種数	17	16	27
			個体数	52	54	106	

⑤ 鳥類の生息密度

ラインセンサス法は、設定したルート of 両側 25m 内で確認した鳥類を記録した結果であるため、ラインの距離×50m の面積中に生息する個体数を示すものである。この個体数を面積で除算することで、各種鳥類の生息密度が計算される。各期の各ルート及び、全ルートを合計した場合の、鳥類の 1ha あたりの生息密度を表 7-5 に示す。繁殖期、越冬期を通して個体数密度の高かった種はメジロ、ヒヨドリであった。両種はいずれも平地から低山、いわゆる里山に生息する種である。繁殖期調査で夏鳥のオオルリが生息密度で第 3 位となりついでキセキレイが第 4 位となった。この 2 種は山地の溪流沿いを好んで生息する種であり、調査地の環境を良く反映した結果となった。

表 7-5 個体数密度 (羽/1ha)

No.	目名	科名	種名	繁殖期	越冬期	計	
1	タカ	タカ	ハチクマ	0.1		0.1	
2	キツツキ	キツツキ	コゲラ		0.1	0.1	
3			アオゲラ	0.2		0.2	
4	スズメ	カササギヒタキ	サンコウチョウ	0.2		0.2	
5		カラス	カケス	0.1	0.2	0.3	
6			ハシブトガラス	0.4	0.2	0.6	
7		シジュウカラ	ヤマガラ		0.1	0.1	
8			シジュウカラ		0.1	0.1	
9		ツバメ	ツバメ	0.1		0.1	
10			コシアカツバメ	0.3		0.3	
11		ヒヨドリ	ヒヨドリ	0.7	0.6	1.3	
12		ウグイス	ウグイス		0.5	0.5	
13			ヤブサメ	0.2		0.2	
14		エナガ	エナガ	0.2	0.7	0.9	
15		ムシクイ	センダイムシクイ	0.1		0.1	
16		メジロ	メジロ	1.1	1.7	2.8	
17		ミソサザイ	ミソサザイ		0.2	0.2	
18		カワガラス	カワガラス		0.1	0.1	
19		ヒタキ	トラツグミ		0.1	0.1	
20			ルリビタキ		0.3	0.3	
21	キビタキ		0.2		0.2		
22	オオルリ		0.6		0.6		
23	スズメ	スズメ	0.1		0.1		
24	セキレイ	キセキレイ	0.5	0.2	0.7		
25	アトリ	イカル	0.1		0.1		
26	ホオジロ	アオジ		0.2	0.2		
27		クロジ		0.1	0.1		
	3 目	18 科	27 種	種数	17	16	27
				個体数	5.2	5.4	10.6

⑥ 重要種

現地調査で確認した鳥類のうち、重要種に該当する種は2目6科6種であった。確認した重要種を表7-6、図7-2示す。

今回の調査で、種の種の保存法記載種は確認できなかったが、環境省レッドリスト記載種を1種、大阪府レッドリスト記載種を6種確認した。

このうち、コシアカツバメは家族群を確認し、保護区境界部にある障がい者福祉施設和泉の里での営巣も確認している。また、センダイムシクイは囀りを確認しており、繁殖している可能性が高い。ハチクマは繁殖を示す行動は記録できなかったが、環境から考えて繁殖は十分考えられる。カワガラスとトラツグミは繁殖期に記録できなかったが、カワガラスは溪流に定住している鳥であり、しかも繁殖期が早いために今回の調査では繁殖状況がつかめなかった可能性があり、犬鳴川や二瀬川では繁殖していると考えられる。また、トラツグミは夜行性の鳥で夜に囀るため、繁殖の確認はとても難しい鳥であるが、2016年6月10日に実施された全国鳥類繁殖分布調査で保護区内での囀りが確認されており、繁殖していると考えられる。カシラダカは2016年に「IUCN（国際自然保護連合）レッドリストで絶滅危惧Ⅱ類に選定されており、世界的に個体数が急激に減少していることが知られている種である。

表 7-6 現地調査 確認した鳥類重要種

No.	目	科	学名	種名	環境省 R L	大阪府 R L
1	タカ	タカ	<i>Pernis ptilorhynchus</i>	ハチクマ	NT	CR+EN
2	スズメ	ツバメ	<i>Hirundo daurica</i>	コシアカツバメ		NT
3		ムシクイ	<i>Phylloscopus coronatus</i>	センダイムシクイ		NT
4		カワガラス	<i>Cinclus pallasii</i>	カワガラス		NT
5		ヒタキ	<i>Zoothera dauma</i>	トラツグミ		NT
6		ホオジロ	<i>Emberiza rustica</i>	カシラダカ		NT
合計	2目	6科	6種		1種	6種

CR+EN：絶滅危惧Ⅰ類 絶滅の危機に瀕している種
 VU：絶滅危惧Ⅱ類 絶滅の危険が増大している種
 NT：準絶滅危惧種 現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては絶滅危惧に移行する可能性のある種
 DD：情報不足 評価するだけの情報が不足している種

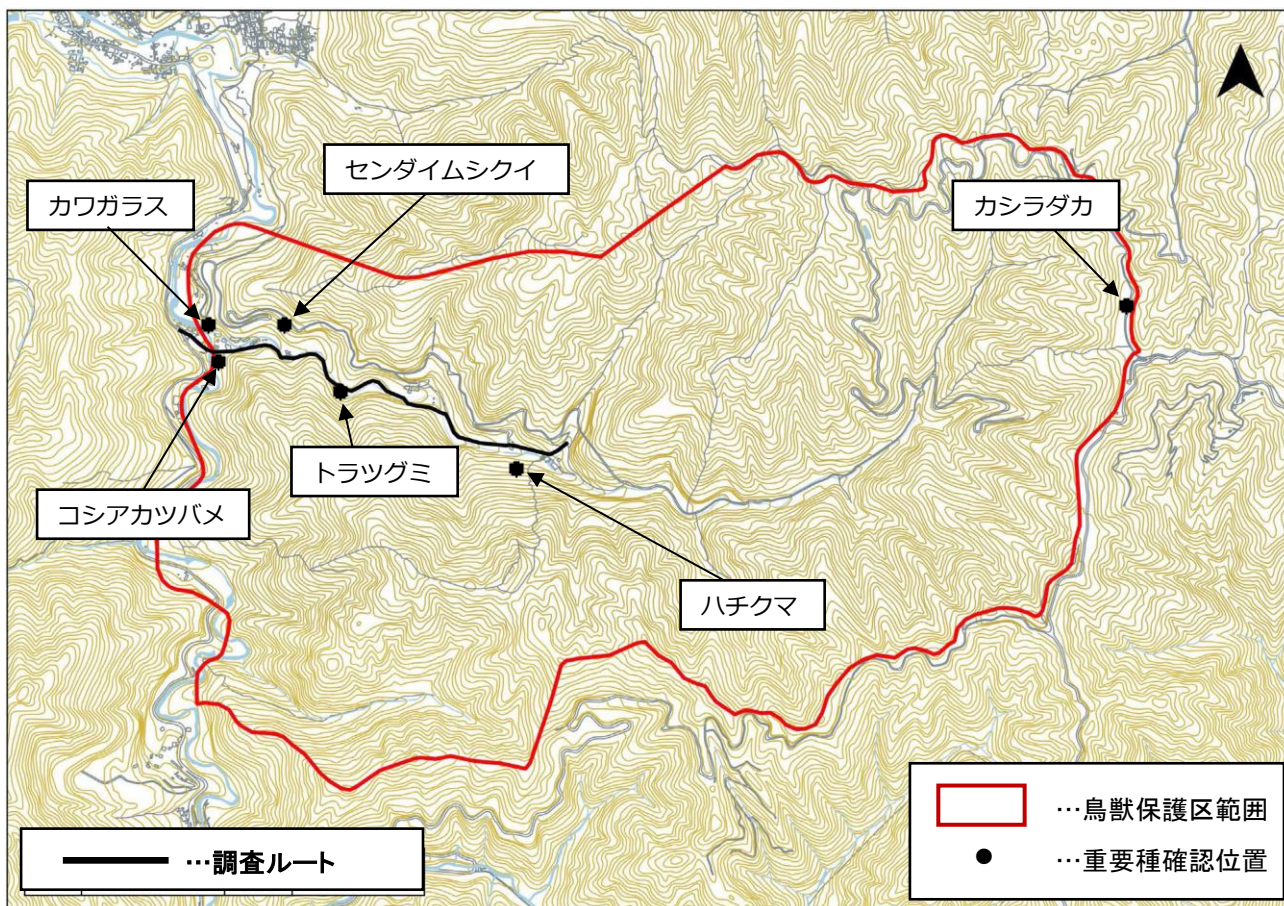


図 7-2 重要種確認位置図

7-2 哺乳類調査結果

① 確認種

現地調査の結果、4目4科4種の哺乳類を確認した。確認した哺乳類を表7-に示す。学名・分類群・配列は「日本の哺乳類 改定2版」（東海大学出版会、2008）に従った。

表 7-7 現地調査 哺乳類確認種

No.	目名	科名	学名	種名	確認状況
1	トガリネズミ目	モグラ科	<i>Mogera wogura</i>	コウベモグラ	
2	鯨偶蹄目	イノシシ科	<i>Sus scrofa</i>	イノシシ	
3	食肉目	イタチ科	<i>Martes melampus</i>	テン	
4	齧歯目	リス科	<i>Sciurus lis</i>	ニホンリス	
計	4目	4科	4種		

② 重要種

現地調査で確認した哺乳類のうち、種の保存法および環境省レッドリスト、大阪府レッドリスト記載種はなかった。

7-3 文献調査結果

表5-1で示したそれぞれの文献の記載概況を表7-8に示す。

表 7-8 文献概要

文献 No.	文献・情報名	記載概要
文献 1	大阪府鳥類目録 2016 地域別鳥類リスト	大阪府で記録された鳥の概要及び地域別のリストが記載されている。
文献 2	大阪の山ふれあいガイド	大坂の自然と歴史・文化を中心としたハイキングコースなどのガイドブック
文献 3	金剛・生駒山地及和泉山脈の環境保全調査	金剛生駒国定公園の延伸に伴う学術調査報告で、地質・植物・動物について記載されている。
文献 4	和泉山脈の自然	和泉山脈の地質・昆虫・植物などに付いて記載されている。
文献 5	牛滝・葛城・犬鳴の自然と人文	牛滝・葛城・犬鳴の地質や自然、文化についてのガイドブック。
文献 6	大阪の自然 大阪自然科学研究会編	大阪府の地形・地質・植物・動物についての概要が記載されている。

① 確認種

これらの文献のうち、本鳥獣保護区の鳥獣に関する記載があったものは文献 1 及び文献 3 のみであり、文献調査の結果、9 目 27 科 78 種の鳥類を確認した。確認種を表 7-9 文献調査 鳥類確認種 (1/2) に示す。

分類は「日本鳥類目録 改訂第 7 版」(2012 年, 日本鳥学会) に従った。

文献調査で確認した鳥類の渡り区分の内訳は、留鳥 37 種、夏鳥 16 種、冬鳥 20 種、旅鳥 4 種、外来種 1 種であり、留鳥 47.4%、夏鳥 20.5%、冬鳥 25.6%、旅鳥 5.1%、外来種 1.3%であり、現地調査の結果と比較し、冬鳥と旅鳥の割合が高かった。冬鳥は渡来数の年変動が多いアトリ科などの鳥の記録が多く、また旅鳥は春と秋の渡りの時期に短期間のみ通過するため、いずれも今回の現地調査では確認が難しかったためであると思われる。なお、渡り区分の分類は、「大阪府鳥類目録 2016」(2017 年 3 月 31 日, 日本野鳥の会大阪支部) に従った。なお、トラツグミについては、冬鳥(一部留鳥)と記載されているが、調査地域での繁殖の可能性を考えて留鳥として分類した。

生息区分	確認種数	割合
留鳥	37 種	47.4%
夏鳥	16 種	20.5%
冬鳥	20 種	25.6%
旅鳥	4 種	5.1%
外来種	1 種	1.3%

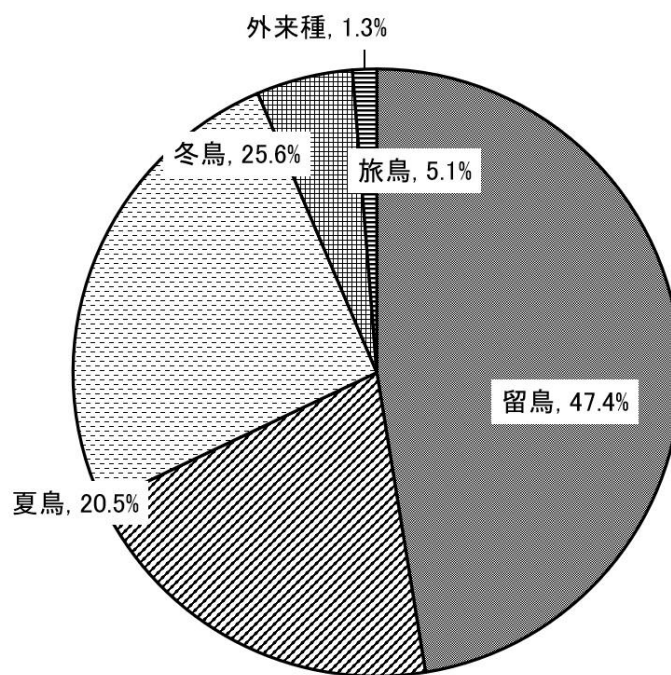


図 7-1 文献調査 渡り区分の内訳

表 7-9 文献調査 鳥類確認種 (1/2)

No.	目名	科名	学名	種名	文献 1	文献 3	渡り 区分
1	キジ	キジ	<i>Syrnaticus soemmerringii</i>	ヤマドリ	○		留鳥
2			<i>Phasianus colchicus</i>	キジ	○		留鳥
3	ハト	ハト	<i>Streptopelia orientalis</i>	キジバト	○	○	留鳥
4			<i>Treron sieboldii</i>	アオバト	○		留鳥
5	ペリカン	サギ	<i>Ardea cinerea</i>	アオサギ	○		留鳥
6			<i>Egretta garzetta</i>	コサギ	○		留鳥
7	カッコウ	カッコウ	<i>Cuculus poliocephalus</i>	ホトトギス	○		夏鳥
8			<i>Cuculus optatus</i>	ツツドリ	○		夏鳥
9			<i>Cuculus canorus</i>	カッコウ	○		夏鳥
10	ヨタカ	ヨタカ	<i>Caprimulgus indicus</i>	ヨタカ	○		夏鳥
11	タカ	タカ	<i>Pernis ptilorhynchus</i>	ハチクマ	○		夏鳥
12			<i>Milvus migrans</i>	トビ	○		留鳥
13			<i>Accipiter gularis</i>	ツミ	○		留鳥
14			<i>Accipiter nisus</i>	ハイタカ	○		冬鳥
15			<i>Accipiter gentilis</i>	オオタカ	○		留鳥
16			<i>Butastur indicus</i>	サシバ	○		夏鳥
17			<i>Buteo buteo</i>	ノスリ	○		冬鳥
18			<i>Nisaetus nipalensis</i>	クマタカ	○		留鳥
19	ブッポウソウ	カワセミ	<i>Alcedo atthis</i>	カワセミ	○		留鳥
20			<i>Megaceryle lugubris</i>	ヤマセミ	○		留鳥
21	キツツキ	キツツキ	<i>Dendrocopos kizuki</i>	コゲラ	○		留鳥
22			<i>Dendrocopos leucotos</i>	オオアカゲラ	○		留鳥
23			<i>Dendrocopos major</i>	アカゲラ	○		冬鳥
24			<i>Picus awokera</i>	アオゲラ	○	○	留鳥
25	スズメ	カササギヒタキ	<i>Terpsiphone atrocaudata</i>	サンコウチョウ	○		夏鳥
26		モズ	<i>Lanius bucephalus</i>	モズ	○		留鳥
27		カラス	<i>Garrulus glandarius</i>	カケス	○	○	留鳥
28			<i>Corvus corone</i>	ハシボンガラス	○		留鳥
29			<i>Corvus macrorhynchos</i>	ハシブトガラス	○	○	留鳥
30		キクイタダキ	<i>Regulus regulus</i>	キクイタダキ	○		冬鳥
31		シジュウカラ	<i>Poecile varius</i>	ヤマガラ	○		留鳥
32			<i>Periparus ater</i>	ヒガラ	○		留鳥
33			<i>Parus minor</i>	シジュウカラ	○	○	留鳥
34		ツバメ	<i>Hirundo rustica</i>	ツバメ	○		夏鳥
35			<i>Hirundo daurica</i>	コシアカツバメ	○		夏鳥
36			<i>Delichon dasypus</i>	イワツバメ	○		夏鳥
37		ヒヨドリ	<i>Hypsipetes amaurotis</i>	ヒヨドリ	○	○	留鳥
38		ウグイス	<i>Cettia diphone</i>	ウグイス	○	○	留鳥
39			<i>Urosphena squameiceps</i>	ヤブサメ	○		夏鳥
40		エナガ	<i>Aegithalos caudatus</i>	エナガ	○		留鳥
41		ムシクイ	<i>Phylloscopus xanthodryas</i>	メボソムシクイ	○		旅鳥
42			<i>Phylloscopus coronatus</i>	センダイムシクイ	○		夏鳥
43		メジロ	<i>Zosterops japonicus</i>	メジロ	○		留鳥
44		ミソサザイ	<i>Troglodytes troglodytes</i>	ミソサザイ	○		留鳥
45		カワガラス	<i>Cinclus pallasii</i>	カワガラス	○	○	留鳥
46		ヒタキ	<i>Zoothera sibirica</i>	マミジロ	○		旅鳥

表 7-9 文献調査 鳥類確認種 (2/2)

No.	目名	科名	学名	種名	文献 1	文献 3	渡り 区分	
47	スズメ	ヒタキ	<i>Zoothera dauma</i>	トラツグミ	○		留鳥	
48			<i>Turdus cardis</i>	クロツグミ	○		夏鳥	
49			<i>Turdus pallidus</i>	シロハラ	○		冬鳥	
50			<i>Turdus naumanni</i>	ツグミ	○		冬鳥	
51			<i>Luscinia akahige</i>	コマドリ	○		旅鳥	
52			<i>Luscinia cyane</i>	コルリ	○		旅鳥	
53			<i>Tarsiger cyanurus</i>	ルリビタキ	○		冬鳥	
54			<i>Phoenicurus auroreus</i>	ジョウビタキ	○		冬鳥	
55			<i>Monticola solitarius</i>	イソヒヨドリ	○		留鳥	
56			<i>Muscicapa dauurica</i>	コサメビタキ	○		夏鳥	
57			<i>Ficedula narcissina</i>	キビタキ	○		夏鳥	
58			<i>Cyanoptila cyanomelana</i>	オオルリ	○		夏鳥	
59			イワヒバリ	<i>Prunella rubida</i>	カヤクグリ	○		冬鳥
60			スズメ	<i>Passer montanus</i>	スズメ	○		留鳥
61	セキレイ	<i>Motacilla cinerea</i>	キセキレイ	○		留鳥		
62		<i>Motacilla alba</i>	ハクセキレイ	○		留鳥		
63		<i>Motacilla grandis</i>	セグロセキレイ	○		留鳥		
64		<i>Anthus hodgsoni</i>	ビンズイ	○	○	冬鳥		
65	アトリ	<i>Fringilla montifringilla</i>	アトリ	○		冬鳥		
66		<i>Chloris sinica</i>	カワラヒワ	○		留鳥		
67		<i>Carduelis spinus</i>	マヒワ	○		冬鳥		
68		<i>Leucosticte arctoa</i>	ハギマシコ	○		冬鳥		
69		<i>Uragus sibiricus</i>	ベニマシコ	○		冬鳥		
70		<i>Carpodacus roseus</i>	オオマシコ	○		冬鳥		
71		<i>Pyrrhula pyrrhula</i>	ウソ	○		冬鳥		
72		<i>Eophona personata</i>	イカル	○		留鳥		
73	ホオジロ	<i>Emberiza cioides</i>	ホオジロ	○	○	留鳥		
74		<i>Emberiza rustica</i>	カシラダカ	○		冬鳥		
75		<i>Emberiza elegans</i>	ミヤマホオジロ	○		冬鳥		
76		<i>Emberiza spodocephala</i>	アオジ	○	○	冬鳥		
77		<i>Emberiza variabilis</i>	クロジ	○		冬鳥		
78	キジ	キジ	<i>Bambusicola thoracicus</i>	コジュケイ	○	○	外来	
計	9目	27科	76種		78	12		

② 重要種

文献調査で確認した鳥類のうち、重要種に該当する種は6目10科18種であった。確認した重要種を表7-10に示す。

文献調査で、種の保存法記載種を1種、環境省レッドリスト記載種を5種、大阪府レッドリスト記載種を17種確認した。このうちタカ科(7種)は他の生物を捕食する食物連鎖の最上位に位置する種であることから、本地域の自然がこのような鳥類の生息を可能にする豊かで多様性に富んだ環境であることを示している。

表 7-10 文献調査 鳥類重要種

No.	目名	科名	学名	種名	種の保存法	環境省 RL	大阪府 RL
1	カッコウ	カッコウ	<i>Cuculus optatus</i>	ツツドリ			NT
2	ヨタカ	ヨタカ	<i>Caprimulgus indicus</i>	ヨタカ		NT	VU
3	タカ	タカ	<i>Pernis ptilorhynchus</i>	ハチクマ		NT	CR+EN
4			<i>Accipiter gularis</i>	ツミ			VU
5			<i>Accipiter nisus</i>	ハイタカ		NT	
6			<i>Accipiter gentilis</i>	オオタカ		NT	NT
7			<i>Butastur indicus</i>	サシバ		VU	CR+EN
8			<i>Buteo buteo</i>	ノスリ			NT
9			<i>Nisaetus nipalensis</i>	クマタカ	国内希少野生動物種	NT	CR+EN
10	ブッポウソウ	カワセミ	<i>Megaceryle lugubris</i>	ヤマセミ			NT
11	キツツキ	キツツキ	<i>Dendrocopos leucotos</i>	オオアカゲラ			NT
12	スズメ	ツバメ	<i>Hirundo daurica</i>	コシアカツバメ			NT
13		ムシクイ	<i>Phylloscopus coronatus</i>	センダイムシクイ			NT
14		カワガラス	<i>Cinclus pallasii</i>	カワガラス			NT
15		ヒタキ	<i>Zoothera dauma</i>	トラツグミ			NT
16			<i>Muscicapa dauurica</i>	コサメビタキ			VU
17		ホオジロ	<i>Emberiza rustica</i>	カシラダカ			NT
18	<i>Emberiza elegans</i>		ミヤマホオジロ			NT	
計	6目	10科	18種		1種	6種	17種

CR+EN：絶滅危惧Ⅰ類
 VU：絶滅危惧Ⅱ類
 NT：準絶滅危惧種
 DD：情報不足

絶滅の危機に瀕している種
 絶滅の危険が増大している種
 現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては絶滅危惧に移行する可能性のある種
 評価するだけの情報が不足している種

7-4 哺乳類文献調査結果

表 5-1 で示した文献のうち、哺乳類に関する記載のあったものは文献 3 のみであった。概況を表 7-11 に示す。

表 7-11 文献概要

文献 No.	文献・情報名	記載概要
文献 3	金剛・生駒山地及和泉山脈の環境保全調査	金剛生駒国定公園の延伸に伴う学術調査報告で、地質・植物・動物について記載されている。

③ 確認種

文献調査の結果、5 目 6 科 7 種の哺乳類を確認した。確認した哺乳類を表 7-12 に示す。学名・分類群・配列は「日本の哺乳類 改定 2 版」(東海大学出版会、2008) に従った。

表 7-12 文献調査 哺乳類確認種

No.	目名	科名	学名	種名
1	トガリネズミ目	モグラ科	<i>Urotrichus talpoides</i>	ヒミズ
2			<i>Mogera wogura</i>	コウベモグラ
3	兎目	ウサギ科	<i>Lepus brachyurus</i>	ニホンノウサギ
4	鯨偶蹄目	イノシシ科	<i>Sus scrofa</i>	イノシシ
5	食肉目	イヌ科	<i>Nyctereutes procyonoides</i>	タヌキ
6		イタチ科	<i>Martes melampus</i>	テン
7	霊長目	オナガザル科	<i>Macaca fuscata</i>	ニホンザル
計	5 目	6 科	7 種	

この他、ニホンリスとホンドギツネについて、この地域で絶滅との記載があった。

④ 重要種

文献調査で確認した哺乳類のうち、重要種に該当する種はなかった。

8. まとめ

1. 現地調査と文献調査により、鳥類を9目27科78種、哺乳類を6目7科8種確認し、そのうち重要種は鳥類18種、哺乳類はなかった(表8-1、8-2、8-3、8-4参照)。
2. 現地調査の結果、繁殖期に5目19科29種、越冬期に2目15科23種、合わせて5目19科40種の鳥類を確認し、そのうち6種が重要種であった。また、確認した鳥類の渡り区分の内訳は、留鳥53%、夏鳥28%、冬鳥20%と、留鳥の割合が半数以上を占め、次いで夏鳥の割合が高かった。繁殖を確認した種(Aランク)は3種、繁殖の可能性が高い種(Bランク)は17種であった。
ラインセンサス法で記録した鳥類は、繁殖期に17種52羽、越冬期に16種54羽、合わせて3目18科27種106羽の鳥類を確認した。
3. 文献調査の結果、9目27科78種の鳥類を確認し、そのうち18種が重要種であった。また、確認した鳥類の渡り区分の内訳は、留鳥47%、夏鳥21%、冬鳥26%、旅鳥5%、外来種1%であり、現地調査の結果と比較し、冬鳥と旅鳥の割合が高かった。
4. 現地調査における鳥類の重要種は、環境省レッドリスト記載種1種、大阪府レッドリスト記載種6種を確認した。また、文献調査における重要種は18種で、そのうち種の保存法記載種が1種、環境省レッドリスト記載種が6種、大阪府レッドリスト記載種が17種であった。このうちタカ科(7種)が記録されている。これらの鳥は他の生物を捕食する食物連鎖の最上位に位置する鳥であることから、本地域の自然が豊かで多様性に富んでいることを示している。
5. 犬鳴山鳥獣保護区は、一年中生息する留鳥だけでなく、冬期に滞在する冬鳥や夏期に渡来して繁殖する夏鳥が多く、また多くの重要種が含まれ、食物連鎖の最上位に位置するタカ科の鳥類も多く含まれていることから、本地域の自然が豊かで多様性に富んでおり、野生鳥獣の生息に適した非常に重要な地域であると考えられる。
6. 哺乳類については、現地調査によって4目4科4種、文献調査によって5目6科7種が確認され、そのうち重要種はなかった。各地で増加による森林被害が問題視されているニホンジカの生息痕跡は確認されなかったが、近年大阪府南部の山地で散発的にシカを目撃や糞痕の観察例があるため、当該地域での目撃情報やササや低木のシカの食害による減少などがなく継続的に情報収集が行われることが望ましい。
7. 犬鳴山鳥獣保護区の自然が豊かで多様性に富んでおり、重要種の生息地としての価値も高いことに加え、近畿自然歩道の一部であり、春から秋にかけてハイキングに訪れる人々が多いことなど、自然レクリエーションゾーンとしての利用価値も非常に高く、今後も保護区として更新を続け、この貴重な自然環境の保護及び保全を続けることは重要であると考えられる。

表 8-1 現地調査・文献調査 鳥類確認種 (1/2)

No.	目名	科名	学名	種名	現地調査		文献 1	文献 3
					繁殖 期	越冬 期		
1	キジ	キジ	<i>Syrnaticus soemmerringii</i>	ヤマドリ			○	
2			<i>Phasianus colchicus</i>	キジ			○	
3	ハト	ハト	<i>Streptopelia orientalis</i>	キジバト			○	○
4			<i>Treron sieboldii</i>	アオバト	○		○	
5	ペリカン	サギ	<i>Ardea cinerea</i>	アオサギ			○	
6			<i>Egretta garzetta</i>	コサギ			○	
7	カッコウ	カッコウ	<i>Cuculus poliocephalus</i>	ホトトギス	○		○	
8			<i>Cuculus optatus</i>	ツツドリ			○	
9			<i>Cuculus canorus</i>	カッコウ	○		○	
10	ヨタカ	ヨタカ	<i>Caprimulgus indicus</i>	ヨタカ			○	
11	タカ	タカ	<i>Pernis ptilorhynchus</i>	ハチクマ	○		○	
12			<i>Milvus migrans</i>	トビ			○	
13			<i>Accipiter gularis</i>	ツミ			○	
14			<i>Accipiter nisus</i>	ハイタカ			○	
15			<i>Accipiter gentilis</i>	オオタカ			○	
16			<i>Butastur indicus</i>	サシバ			○	
17			<i>Buteo buteo</i>	ノスリ			○	
18			<i>Nisaetus nipalensis</i>	クマタカ			○	
19	ブッポウソウ	カワセミ	<i>Alcedo atthis</i>	カワセミ			○	
20	キツツキ	キツツキ	<i>Megaceryle lugubris</i>	ヤマセミ			○	
21			<i>Dendrocopos kizuki</i>	コゲラ	○	○	○	
22			<i>Dendrocopos leucotos</i>	オオアカゲラ			○	
23			<i>Dendrocopos major</i>	アカゲラ		○	○	
24			<i>Picus awokera</i>	アオゲラ	○		○	○
25	スズメ	カササギヒタキ	<i>Terpsiphone atrocaudata</i>	サンコウチョウ	○		○	
26		モズ	<i>Lanius bucephalus</i>	モズ		○	○	
27		カラス	<i>Garrulus glandarius</i>	カケス	○	○	○	○
28			<i>Corvus corone</i>	ハシボソガラス			○	
29			<i>Corvus macrorhynchos</i>	ハシブトガラス	○	○	○	○
30		キクイタダキ	<i>Regulus regulus</i>	キクイタダキ		○	○	
31		シジュウカラ	<i>Poecile varius</i>	ヤマガラ	○	○	○	
32			<i>Periparus ater</i>	ヒガラ	○	○	○	
33			<i>Parus minor</i>	シジュウカラ	○	○	○	○
34		ツバメ	<i>Hirundo rustica</i>	ツバメ	○		○	
35			<i>Hirundo daurica</i>	コシアカツバメ	○		○	
36			<i>Delichon dasypus</i>	イワツバメ	○		○	
37		ヒヨドリ	<i>Hypsipetes amaurotis</i>	ヒヨドリ	○	○	○	○
38		ウグイス	<i>Cettia diphone</i>	ウグイス	○	○	○	○
39			<i>Urosphena squameiceps</i>	ヤブサメ	○		○	
40		エナガ	<i>Aegithalos caudatus</i>	エナガ	○	○	○	
41		ムシクイ	<i>Phylloscopus xanthodryas</i>	メボソムシクイ			○	
42	<i>Phylloscopus coronatus</i>		センダイムシクイ	○		○		
43		メジロ	<i>Zosterops japonicus</i>	メジロ	○	○	○	
44		ミソサザイ	<i>Troglodytes troglodytes</i>	ミソサザイ	○	○	○	

表 8-2 現地調査・文献調査 鳥類確認種 (2/2)

No.	目名	科名	学名	種名	現地調査		文献 1	文献 3
					繁殖 期	越冬 期		
45	スズメ	カワガラス	<i>Cinclus pallasii</i>	カワガラス		○	○	○
46		ヒタキ	<i>Zoothera sibirica</i>	マミジロ			○	
47			<i>Zoothera dauma</i>	トラツグミ		○	○	
48			<i>Turdus cardis</i>	クロツグミ			○	
49			<i>Turdus pallidus</i>	シロハラ		○	○	
50			<i>Turdus naumanni</i>	ツグミ			○	
51			<i>Luscinia akahige</i>	コマドリ			○	
52			<i>Luscinia cyane</i>	コルリ			○	
53			<i>Tarsiger cyanurus</i>	ルリビタキ		○	○	
54			<i>Phoenicurus auroreus</i>	ジョウビタキ			○	
55			<i>Monticola solitarius</i>	イソヒヨドリ	○		○	
56			<i>Muscicapa dauurica</i>	コサメビタキ			○	
57			<i>Ficedula narcissina</i>	キビタキ	○		○	
58			<i>Cyanoptila cyanomelana</i>	オオルリ	○		○	
59		イワヒバリ	<i>Prunella rubida</i>	カヤクグリ			○	
60		スズメ	<i>Passer montanus</i>	スズメ	○		○	
61		セキレイ	<i>Motacilla cinerea</i>	キセキレイ	○	○	○	
62			<i>Motacilla alba</i>	ハクセキレイ			○	
63			<i>Motacilla grandis</i>	セグロセキレイ			○	
64			<i>Anthus hodgsoni</i>	ビンズイ			○	○
65		アトリ	<i>Fringilla montifringilla</i>	アトリ			○	
66			<i>Chloris sinica</i>	カワラヒワ			○	
67			<i>Carduelis spinus</i>	マヒワ			○	
68			<i>Leucosticte arctoa</i>	ハギマシコ			○	
69			<i>Uragus sibiricus</i>	ベニマシコ			○	
70			<i>Carpodacus roseus</i>	オオマシコ			○	
71			<i>Pyrrhula pyrrhula</i>	ウソ		○	○	
72			<i>Eophona personata</i>	イカル	○		○	
73		ホオジロ	<i>Emberiza cioides</i>	ホオジロ	○		○	○
74			<i>Emberiza rustica</i>	カシラダカ		○	○	
75			<i>Emberiza elegans</i>	ミヤマホオジロ			○	
76			<i>Emberiza spodocephala</i>	アオジ		○	○	○
77			<i>Emberiza variabilis</i>	クロジ		○	○	
78	キジ	キジ	<i>Bambusicola thoracicus</i>	コジュケイ			○	○
計	9目	27科	78種		29	23	78	12

表 8-3 現地調査・文献調査 鳥類重要種

No.	目名	科名	学名	種名	種の保存法	環境省 RL	大阪府 RL
1	カッコウ	カッコウ	<i>Cuculus optatus</i>	ツツドリ			NT
2	ヨタカ	ヨタカ	<i>Caprimulgus indicus</i>	ヨタカ			VU
3	タカ	タカ	<i>Pernis ptilorhynchus</i>	ハチクマ			CR+EN
4			<i>Accipiter gularis</i>	ツミ			VU
5			<i>Accipiter nisus</i>	ハイタカ		NT	
6			<i>Accipiter gentilis</i>	オオタカ			NT
7			<i>Butastur indicus</i>	サシバ		VU	CR+EN
8			<i>Buteo buteo</i>	ノスリ			NT
9			<i>Nisaetus nipalensis</i>	クマタカ	○		CR+EN
10	ブッポウソウ	カワセミ	<i>Megaceryle lugubris</i>	ヤマセミ			NT
11	キツツキ	キツツキ	<i>Dendrocopos leucotos</i>	オオアカゲラ			NT
12	スズメ	ツバメ	<i>Hirundo daurica</i>	ロシアカツバメ			NT
13		ムシクイ	<i>Phylloscopus coronatus</i>	センダイムシクイ			NT
14		カワガラス	<i>Cinclus pallasii</i>	カワガラス			NT
15		ヒタキ	<i>Zoothera dauma</i>	トラツグミ			NT
16			<i>Muscicapa dauurica</i>	コサメビタキ			VU
17		ホオジロ	<i>Emberiza rustica</i>	カシラダカ			NT
18	<i>Emberiza elegans</i>		ミヤマホオジロ			NT	
計	6 目	10 科	18 種		1 種	6 種	17 種

CR+EN：絶滅危惧 I 類
 VU：絶滅危惧 II 類
 NT：準絶滅危惧種
 DD：情報不足

絶滅の危機に瀕している種
 絶滅の危険が増大している種
 現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては絶滅危惧に移行する可能性のある種
 評価するだけの情報が不足している種

表 8-4 現地調査・文献調査 哺乳類確認種

No.	目名	科名	学名	種名
1	トガリネズミ目	モグラ科	<i>Urotrichus talpoides</i>	ヒミズ
2			<i>Mogera wogura</i>	コウベモグラ
3	兎目	ウサギ科	<i>Lepus brachyurus</i>	ニホンノウサギ
4	鯨偶蹄目	イノシシ科	<i>Sus scrofa</i>	イノシシ
5	食肉目	イヌ科	<i>Nyctereutes procyonoides</i>	タヌキ
6		イタチ科	<i>Martes memlampus</i>	テン
5	齧歯目	リス科	<i>Sciurus lis</i>	ニホンリス
7	霊長目	オナガザル科	<i>Macaca fuscata</i>	ニホンザル
計	6 目	7 科	8 種	

現地調査・文献調査で確認した哺乳類のうち、重要種に該当する種はなかった。

9. 参考文献

1. 「環境省レッドリスト 2019」(2019 年, 環境省)
2. 「大阪府レッドリスト 2014」(2014 年, 大阪府)
3. 「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律 国内希少野生動植物種」(環境省)
4. 「大阪府鳥類目録 2016」(2017 年 3 月 31 日, 日本野鳥の会大阪支部)
5. 「日本鳥類目録 改訂第 7 版」(2012 年, 日本鳥学会)
6. 「日本の哺乳類 改定 2 版」(東海大学出版会、2008)
7. 「大阪の山ふれあいガイド」(1995 年 10 月, 大阪府農林水産部緑の環境整備室)
8. 「金剛・生駒山地及和泉山脈の環境保全調査」(1977 年 6 月, 大阪府農林部自然保護課)
9. 「和泉山脈の自然」(1977 年, 大阪市立自然史博物館)
10. 「牛滝・葛城・犬鳴の自然と人文」(1968 年 4 月 20 日, 芝本 貞太郎)
11. 「大阪の自然 大阪自然科学研究会編」(1966 年 4 月 15 日, 株式会社六月社)